

医家肖像に関する考察

小曾戸 洋, 天野 陽介, 町 泉寿郎, 花輪 壽彦

北里研究所東洋医学総合研究所医学研究部

武田科学振興財団杏雨書屋では、現在『杏雨書屋所蔵医家肖像集』の編纂・刊行作業を進めている。かつて江戸時代以前の日本の名医の肖像を集めた書に、藤浪剛一の『医家先哲肖像集』(昭和11・刀江書院)があり、同書には165の画像が収載されている。藤浪剛一(乾々斎)の収集した古医書、医学史料類は藤浪の没後、多くはまとまって杏雨書屋の蔵となった。杏雨書屋には藤浪・佐伯・杉立の各文庫、また武田薬品研究所を通じて入庫した医家肖像画も少なくないが、やはり医家肖像コレクションの中核をなすのは藤浪の蒐集品である。藤浪『医家先哲肖像集』には各肖像にその略伝を載せるが、画像の出自を示す記載がない。以下同書の収載品を中心に、その由緒来歴について考察する。

藤浪に先行して、名医の子孫を訪ね歩き、肖像画を集めたのは富士川游である。富士川の当該蒐集品のほとんどは日本大学医学部図書館富士川文庫に伝存する。藤浪は富士川に啓発され、医家肖像の蒐集に傾注した。その蒐集期は大正末から昭和初期(戦前)である。富士川も藤浪も、医家子孫から譲渡可能なものは購入し、不可能なものは画家を備って模写させた。『医家先哲肖像集』所載の模写本は鷹巢豊治(東京帝室博物館員)が作成し、結城素明が筆を加えたという。ちなみに日本医史学会の所有する模写本38軸は、学会理事長をつとめた富士川(昭和13~15、理事長在任)が関与し、作成せしめたものではなかるうか。

[A] 原画が杏雨に存するもの

曲直瀬道三、曲直瀬玄朔、曲直瀬玄淵、宇田川玄随、橋元周、小島宝素など。曲直瀬の3点は今大路家伝来品で、昭和6年今大路銀次郎より藤浪へ譲渡されたもの。

[B] 模写で、原画が子孫に伝存するもの。

安芸守貞(北小路氏)、曲直瀬正淋(愛知曲直瀬氏)、野呂元丈(野呂氏)、榎林鎮山(榎林氏)、越智平庵(愛知曲直瀬氏)、山脇東洋・東門(山脇氏)、瀬丘長圭(土居氏)、小石元俊・元瑞(小石氏)、小野蘭山(小野氏)、村井琴山(村井氏)、多紀元堅(多紀氏)中神琴溪(中神氏)、江馬蘭齋(江馬氏)、緒方洪庵(緒方氏)など。

[C] 模写で、原画が他家に伝存するもの

丹波康頼(丹家氏、同氏は康頼の家系上にあるが伝来は別)、井上玄徹(日大富士川)、吉益東洞(高橋氏)など。

[D] 模写で、原画が亡失または行方不明のもの

杉田玄白、岡節齋、片倉鶴陵(木像)など。

[E] 原画が亡失または行方不明のもの

三輪東朔など。

[F] 木像(人形)により画像が作成されたもの

観勤、田代三喜(奈須信徳筆、原像は焼失)、奥村良竹、橋南溪、小森桃塙(小森氏)。

[G] 書物から作成されたもの

平賀源内(戯作者考補遺)、柚木太淳(近世名家肖像)、山本亡羊(遺馨録)など。

[H] もとは写真に由来するもの

大槻俊齋、三宅良齋、森立之、浅田宗伯など。

なお、『医家先哲肖像集』には、香川修庵(実は山県大貳)、多紀柳泚(実は多紀元堅)、多紀元堅(実は多紀柳泚)などのように画像を取り違えたものもある。

藤浪は『医家先哲肖像集』の緒言で、いまだ肖像の発見できぬ主要な医家、26人の名を挙げて嘆じている。この26名中、その後発見され、杏雨書屋に収蔵されたものに、古林見宜、岑少翁、山田凶南、田村元雄の肖像画がある。また杏雨書屋には収載されないものの、その後新出した肖像画に、岡本一抱、目黒道琢などがある。

藤浪は「伝記と肖像とは車の両輪の如くである」という。今後、医史学界において、医家肖像の調査研究がさらに進展することを期待したい。